



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2023年1月

販促・魅力発信

- 昨年12月20日に立上げを発表した「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」については、本年1月31日時点で、パナソニックグループや東京都、大阪府等の多くの職員を抱える**500以上の企業等が参加を表明**。引き続き、産業界、全国の自治体、政府関係機関等から広く参加を募り、消費拡大を図る。
- 立上げの翌日（12月21日）には、**太田経産副大臣が経団連（久保田副会長）に対し、会員企業への参加要請及び「三陸・常磐もの」の消費拡大の協力をお願い**。

▼「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」のチラシ



三陸・常磐もの ネットワーク SANRIKU JOBAN MONO NETWORK

「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」は、東日本大震災の被災地の本格的な復興に向けて、「三陸・常磐もの」の魅力を発信し、消費を拡大するための官民連携の枠組みです。

企業、政府関係機関、全国の自治体の積極的なご参加をお願いします。

「三陸・常磐もの」の魅力発信・消費拡大を図るための全国的なネットワークを構築し、三陸・常磐地域の水産業等の復興・発展につなげるプロジェクト

「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」は、産業界、全国の自治体、政府関係機関から広く参加を募り、三陸・常磐地域の水産物等の「売り手」と「買い手」を繋げることで、「三陸・常磐もの」の魅力を発信し、消費拡大を推進するプロジェクトです。本ネットワークにご参加頂いた企業等の数に、社員や弁当、キッチンカーやマルシェを通じて「三陸・常磐もの」をお届けし、消費拡大に繋がります。また、「三陸・常磐フェア」などのイベントの企画や情報発信を行うことで、三陸・常磐地域の水産業等の本格的な復興と更なる発展を目指します。



魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク 公式サイト

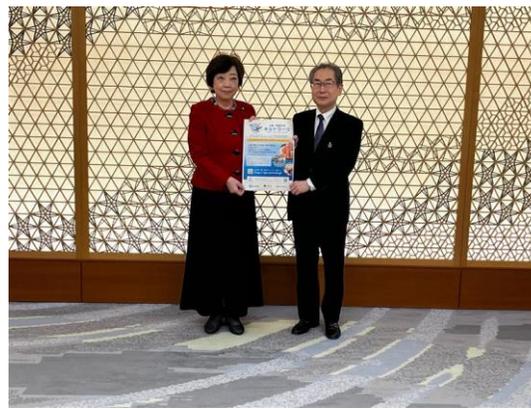
<https://sjm-network.jp/>



ご参加頂ける皆様は下記の登録フォーマットより、ご登録をお願いします。
<https://sjm-network.form.kintoneapp.com/public/kigyou-entry>



▼西村経産大臣からの発表（2022/12/20）



- 「ごひいき！三陸常磐キャンペーン」の第2弾として、漁業関係者の皆様にご協力を頂きながら、東京ドームにおいて開催された「ふるさと祭り東京2023」にブースを設置し、**三陸常磐水産品の魅力を発信**。
- また、本イベント実施期間の1月14日には、ステージイベントを実施し、**三陸常磐水産品のPRを実施**（**西村経済産業大臣、太田経済産業副大臣、ご出展者の皆様、キャンペーンアンバサダーのアルコ&ピースが登壇**）。



ふるさと祭り東京2023
－日本のまつり・故郷の味－
開催期間：
2023年1月13日（金）～22日（日）
時 間：
10時～21時 ※22日は18時まで
会 場：
東京ドーム

ふるさと祭り東京におけるステージイベントの様子



- 三陸産水産物の販路開拓及びその安全性や魅力に係る情報発信を図るため、風評に負けず**輸出事業を推進している事業者の商品を紹介・広報**。
- 具体的には、本田水産（株）の冷凍殻付き牡蠣（生食用）について、シンガポールの輸入卸売業者と連携のもと、シンガポールの小売店舗（4店舗）にて**「三陸産水産物のプロモーション」を12月24日～1月22日の期間で開催**。経済産業省において、開催を支援。
- 小売店店頭にて販促コーナーを設置し、販促スタッフが来店客に対象商品のサンプル品を配布して**三陸もの牡蠣のPRを実施**。
- あわせて、当該牡蠣の食味、規格・パッケージデザイン、価格等について現地消費者からヒアリング。
- **ヒアリング結果をシンガポール向け商品開発に活かし、今後も販路拡大を図るとともに、情報発信も継続していく**。

シンガポールにおける「三陸産水産物のプロモーション」の開催模様



- 経済産業省の「6次産業化等へ向けた事業者間マッチング等支援事業」（以下、販路開拓支援事業）において、**福島県産品の販路拡大に向けて、小売り・イベント等による販売促進支援や企業間取引拡大に向けたマッチング支援**をおこなっている。
- 販路開拓支援事業の成果として、**1月に関西の百貨店等にて常磐大漁市を開催し、福島県産品の販売会を実施した。**
- 引き続き、こうした支援を通じて福島県産品の販路拡大を進める。

魚くみ 常磐大漁市

- 2023年1月25～29日の5日間、関西の百貨店等計6店舗（大丸心齋橋店、阪神百貨店梅田店、近商ストア布施店、松坂屋高槻店、近鉄奈良店、イオンモール神戸南店）にて、福島県の水産加工品の販売会を開催。
- 常磐ものの水産加工品を関西圏の消費者に味わってもらい、販路拡大を目指す。
- 福島県の水産加工業者6社、8商品を販売した。



ふくしま
みらいチャレンジ
2023年1月25日(水)～1月29日(日)

常磐大漁市
～ふくしまの水産品がずらり～

JOBAN TAIRYO ICHI

開催期間 2023年1月25日(水)～1月29日(日)

開催場所

- ◆ 魚くみ 近鉄奈良店
- ◆ 魚くみ 近商ストア布施店
- ◆ 魚くみ 松坂屋高槻店
- ◆ 魚がし イオンモール神戸南店
- ◆ 魚くみ 阪神百貨店梅田店
- ◆ 魚くみ 大丸心齋橋店

ふくしまみらいチャレンジプロジェクトでは、地元福島への想いを持ち、こだわりをもって果敢に挑戦する、浜通り地域等15市町村の事業者を支援しています。その取り組みの一環として、この度、浜通り地区の水産事業者が生み出す漁産品を集めた「常磐大漁市」を開催いたします。

主催：ふくしまみらいチャレンジプロジェクト

ふくしまみらいチャレンジ 🔍 検索

- 販路開拓支援事業の成果として、水産加工事業者と流通事業者の**新商品が1月に2件販売開始となった**。
- 引き続き、こうした支援を通じて福島県産品の販路拡大を進める。

開発商品の販売事例（事例1）

- 1月から、上野台豊商店のカナガシラ粉末を使用したあかつの金星ちゃんこ鍋スープが福島県と茨城県で展開するスーパーのうち10店舗で販売開始し、今後も継続販売予定。
- いわき市出身のお笑い芸人あかつさんとのコラボ商品。



▲販売商品（あかつの金星ちゃんこ鍋スープ）

開発商品の販売事例（事例2）

- 12月より旭屋とマルリフーズの共同開発商品「あおさのりラーメン」を福島県内の産直売り場で販売を開始した。
- 事業者の希望により常温商品の商品開発のサポートを行った。



▲販売商品（あおさのりラーメン）

- 地域の伝統・魅力等発信支援事業の対象事業者である**特定非営利活動法人コースター**が、12月23日、1月21日・22日に、キッチンカーやブース出店による**販売・交流イベント「富岡まちなかマーケット」**を富岡町にて実施。**40店以上、3,000人を超える参加者が来場**し、普段味わえないグルメを堪能しながら**富岡町での交流創出を図った**。
- **今も避難生活を続ける町民や双葉郡の住民が久々に富岡町に来訪**し、ブース出店にて作品販売を実施。

富岡まちなかマーケットの紹介



▲当日のイベントの様子

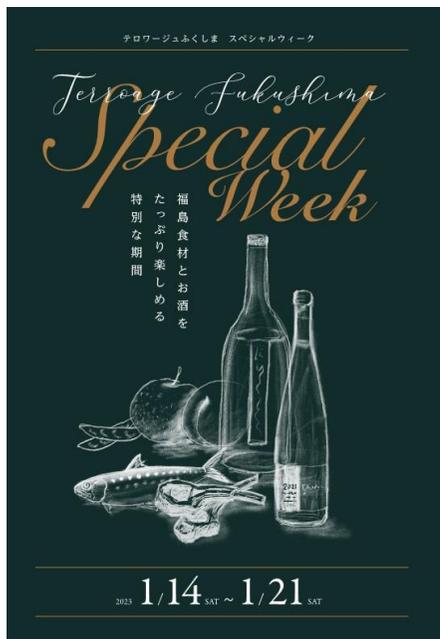


▲イベントの紹介ポスター

▲当日の参加者への配布用リーフレット

- 地域の伝統・魅力等発信支援事業の対象事業者である**テロワージュふくしま実行委員会**が、1月14日～21日の間、都内4店の料理店と連携し、**福島県産の食材と酒を活用したコース料理を提供するイベント（30名が参加）**を都内の料理店にて実施。
- 都内イベントと並行して、福島県内6店の料理店と連携し、スペシャル・メーカーズディナーを企画。1月16日の「和肴ごとく」（福島市）をはじめ、各店で食や酒の生産者も参加して実施。
- **福島県産の食や酒の魅力を紹介**することで、**福島県の風評被害の払拭ならびに、食や自然など魅力溢れる福島へ足を運んでもらえることを目指す取り組みを実施。**

「テロワージュふくしま」2023冬の料理フェアの様子



▲都内イベント開催のフライヤー（表紙）



▲モダン・スパニッシュ「Sant Pau」での昼食会の様子



▲「Sant Pau」における料理の一例
（左：アペルティーボ「福島への旅のはじまり」の3品、右：合津馬肉のタルタル）



▲福島県内イベント開催のフライヤー（一部）



▲「ごとく」における料理の一例と様子



▲福島中央テレビ「ゴジてれChu！」において約11分間を割いて「テロワージュふくしまの魅力に迫る！」を放映（1月20日放送&1月29日再放送）
You Tube公開サイトは右のQRコード



- 本年1月20日、地域の伝統・魅力等発信支援事業の対象事業者である**かわうちワイン株式会社**がワインバー ローディ（東京都渋谷区）において、首都圏にお住まいのワイン事業関係者、アドバイザー及び購入業者等（約30名）が参加する、**かわうちワインのお披露目会を開催**。
- 川内村にゆかりのあるゲストを迎えたトークショーも合わせ開催。

「かわうちワインとトークを楽しむタベ in Tokyo」の紹介



かわうちワインは、福島県川内村の標高700mにある2021年に開所した新しいワイナリーです。この度、首都圏の皆様へかわうちワインのお披露目の会として、川内村にゆかりのある素敵なゲストをお迎えしてトークショーを開催します。かわうちワインを飲みながら、楽しいひと時をお過ごしください。

かわうちワインと トークを楽しむタベ in Tokyo

2023年1月20日(金)
18:30 start 受付18:00-

会場：ワインバー ローディ
東京都渋谷区東1丁目303-3 カザリビル1F
(最寄駅：渋谷駅)

会費：おひとり様 **¥7,000** (税込)
※当日現金にてお支払い願います。

定員：28名様(要予約、先着順)
主催：かわうちワイン株式会社
令和4年度地域の伝統・魅力等発信支援事業

トークショーと共に、3種類のかわうちワインとオードブルをお楽しみいただけます。
お土産付き

申込：お名前、人数を明記の上、下記メールまで、お申込みください。【申込〆切1月18日(水)】
お問合せ：【事務局】株式会社コムテック地域工学研究所
電 話：03-6222-5012
メール：comtec.info@comtecj.com

～ゲストプロフィール～
髙橋 海芳子 Mihoko Sudo
ワイナリーオーナーを経てフードコーディネーターとなる。一般社団法人日本ソムリエ協会認定ソムリエ、シェフアリエ（ジャンパニーニ・鶴田・フランス・スズキ賞受賞者の会）、フランスの植物療法を学び、心身の調和をめざすライフスタイルを実践している。
前川 祐明 Yoshiki Sakito
株式会社リアルディア代表取締役社長。ソニー、ペイン・アンド・カンパニー、ウエルト・ディズ、ACILなどを経て、アップル日本法人副社長兼日本法人代表取締役副社長に就任。スタートアップ・ジョブズに就いた日本初陣で、iPad を大ヒットに導き、アップルを驚かせた。現在は、ワンダーリング事業を展開している。電通教育「ゼンイセ・メソッド」のディレクターを務める。



◀ロゼスパークリングで乾杯



▲トークショーの様子



▲参加された皆様と記念写真



▲楽しい時間をお過ごしの皆様



▲ご案内チラシ

- 地域の伝統・魅力等発信支援事業の対象事業者である**ふくしま共走ネイチャーランシリーズ実行委員会**が、12月4日に南相馬市を中心に開催された**「野馬追の里健康マラソン大会（約2,800名参加）」**、12月11日に楡葉町及び広野町に跨がるJヴィレッジを中心に開催された**「Jヴィレッジハーフマラソン（約1,400名参加）」**の会場において**広報ブースを設置。各市町村のマラソン大会事務局と連携した広報活動を実施。**
- ふくしま共走スタンプラリーや今後開催予定のマラソン大会情報を発信するとともに、**県・市町村の観光・特産品パンフレットの配布や、田村市産新米の配布を通じた観光・物産情報の発信を行った。**
- マラソン大会への参加意欲向上や**浜通り地域等の交流人口の拡大に取り組むとともに、特産品の認知度向上、購買意欲啓発による消費喚起及び地域経済活性化に取り組んだ。**

「野馬追の里健康マラソン大会」でのふくしま共走ネイチャーランシリーズの取組紹介



▲マラソン大会の様子



▲広報ブース



▲広報ブース対応の様子

- 中小機構では、「**公的機関が主催する中小企業のための国内最大級のECイベント**」である「**EC Camp2022**」を開催し、国内外の販路開拓に取り組もうとする中小企業、小規模企業者に向けた最新のECサービス・ツールを提供する企業とオンライン上で個別に相談できるEC商談や、国内・越境ECの概況やノウハウ等を習得できるオンラインセミナーを実施。
- **岩手県・宮城県・福島県の水産・畜産加工品を取扱う8社が、EC支援事業者とのマッチング（ECモール出店やマーケティング）支援などを活用。**

EC Camp2022

- ・開催日：2023/1/23（月）～1/27（金）
【国内で売りたい方】1/23(月)～25(水)
【海外で売りたい方】1/25(水)～27(金)
- ・開催方式：オンライン特設サイト（要登録）
- ・出展社：EC支援事業者 70社出展社一覧
- ・プログラム：マッチング（相談・商談）
ECセミナー
ECナビゲート（EC相談）

公的機関が主催する中小企業のための国内最大級のECイベント

EC Camp2022

ネット販路のノウハウ 国内で売りたい
ネットショップの売上を上げたい
海外に販路を伸ばしたい

1/23(月) ▶ 27(金) 10:00-17:00 | 金 | オンライン開催

国内で売りたい方 1/23(月) ▶ 25(水)
海外で売りたい方 1/25(水) ▶ 27(金)

Webで参加申込み受付中 [eccamp2022](https://eccamp2022.jp/) 検索 <https://eccamp2022.jp/>

中小企業が利用しやすいECサービスを提供する70社が参加!
オンラインの高級で効率的に情報収集できます

EC Camp 2022 出展社一覧

ECサービス (ECモール・ネットショップ・ECサービス)

- amazon
- Alibaba.com
- Paycom
- Shopee
- soyuzh
- 楽天市場
- VEGA (VISA)
- YANAGI
- 47net
- Rakuten
- rak (楽天)

物流・物流代行 (海外の企業・個人向け)

- ECMOTO
- SBS 236
- openLogi
- FedEx
- Y.M.I.L.K

マーケティング (海外の企業・個人向け)

- ISB Marketing
- Barriz
- Modelcase

カートASP (海外の企業・個人向け)

- COMPERCE
- dai
- PRCS
- ROCK WAVE
- Square
- STERFIELD

販売・運営代行 (海外の企業・個人向け)

- JapanMarket
- AMAZON
- Minato
- Softcom
- INSK
- ICUweb

コンサルティング (海外の企業・個人向け)

- oxalpha
- igraff
- NE
- ucfan
- SAWAYAY
- LISUUTOI
- WASABI

決済

- Payoneer

その他

- HAT
- workahit

主催 岩手県・宮城県・福島県 中小企業基盤整備機構
協賛 岩手県・宮城県・福島県 中小企業基盤整備機構
協賛 岩手県・宮城県・福島県 中小企業基盤整備機構
協賛 岩手県・宮城県・福島県 中小企業基盤整備機構

お問い合わせ 03-6828-8606
eccamp2022@itb.com

- 中小機構では、東日本大震災以降、JRクロスステーションの「**東北復興弁当**」企画に協力。今年度も第11弾として支援先である被災企業の食材を使ったお弁当が企画・販売され、事業者・購入者ともに大好評を得ている。根強いファンからは応援メッセージが届けられ、今後も継続が期待されている。
- 併せて、外部関係機関との会議等で復興弁当を購入・紹介する等で**岩手県・宮城県・福島県の地域産品を活用**。また、業務連携を図る各種中小企業支援機関に対しても、当該取組みへの協力を依頼。今後も、機構内の親睦事業等で**被災地域の水産加工品等を購入し、商品の魅力発信と消費拡大に寄与していく**。

水産加工品の購入商品（イメージ）



▲にしんの山椒漬



▲寿司はね

東北復興弁当



- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、**大丸東京店での「ふくしま卯んまいグルメ福袋」の販売や、米国ラスベガスで開催された「Winter Fancy Food Show 2023ジャパンパビリオン」への出展により、福島県産品の流通促進の取組を実施。**
- 東京駅直結の百貨店である大丸東京店にて**1月2日に福島県産品を詰め込んだ新春初売り福袋「ふくしま卯んまいグルメ福袋」を販売した。**用意した**480個を大盛況のうち完売**することができた。
- また、**1月15日～17日に開催された「Winter Fancy Food Show 2023ジャパンパビリオン」に、福島県産米「天のつぶ（パックライス）」を出品。**アメリカでは初の「発見！ふくしま」ブース出展であったが、各国の来場者の「福島県産米」への関心は高く、存分に魅力を発信した。
- こうしたイベントの開催により、福島県産品の美味しさ・魅力を発信する取組を継続していく。

大丸東京店 新春初売り福袋販売（1/2）



Winter Fancy Food Show 2023 @米国ラスベガス（1/15～1/7）



▼「天のつぶ」キューブ米とパックライス

▲ジャパンパビリオンのブースエリア



理解釀成

- 昨年10月25日（福島県いわき市）及び本年1月17日（東京）に、ALPS処理水の放出後も安心して取引を継続いただけるよう、**流通・小売事業者等を対象にしたシンポジウムを開催。**（参加者数は合計650名程度）
- 水産物等の食の安全に対して影響はない放出方法であること、安全・安心のためにモニタリングを実施することをご説明し、各データが科学的な根拠としてどういった意味を持つか、どう読み解けばいいかについても解説。また、安全・安心をさらにわかりやすく伝える取組として、東京電力から魚類飼育試験について、有識者から水産物に含まれるトリチウムの迅速測定法の研究等についてご説明いただいた。
- 参加者からは、国内外に対して、政府一体となった風評対策を求める意見等があり、**海外も含め丁寧な説明を行っていることに加え、今後も政府一丸となって、モニタリングを含めALPS処理水の海洋放出の安全性確保に関する正しい情報発信を行っていく旨を説明。**
- さらに、**第3回シンポジウム（本年3月いわき市にて開催予定）**や、**流通事業者の方々向けに放出を行う福島第一原発の現場視察を実施**し、流通事業者のご理解とご協力を得ながら、政府一丸となって風評対策を進めていく。

モニタリングシンポジウムの様子



- 昨年12月1日に新設した、WEBサイト（ALPS処理水について、科学的根拠に基づいた情報をわかりやすくまとめたもの）について、**英語版を公開**。

英語版WEBサイト（Let's get to know and understand about ALPS treated water.）



Let's get to know and understand about ALPS treated water.

- 1 What is ALPS treated water? Is it really safe?
- 2 What is tritium?
- 3 Why must ALPS treated water be discharged?
- 4 Can it really be safely discharged into the sea?
- 5 Is there any risk to the fish in nearby waters?



Japanese | English

What is ALPS treated water?
Is it really safe?
Why must ALPS treated water be discharged?
Can it safely be discharged into the sea?

For reconstruction
For preventing reputational damage

This website provides easy-to-understand information about ALPS treated water based on scientific evidence.

Understanding this information will help support reconstruction.
We hope you will take this opportunity to know and understand about ALPS treated water.

NEWS January 30, 2023 Special website in English was launched.

廃炉・汚染水・処理水対策ポータルサイト
福島第一原子力発電所の今とこれから

Portal Site for Measures Related to Decommissioning, Contaminated Water, and Treated Water
(Ministry of Economy, Trade and Industry)

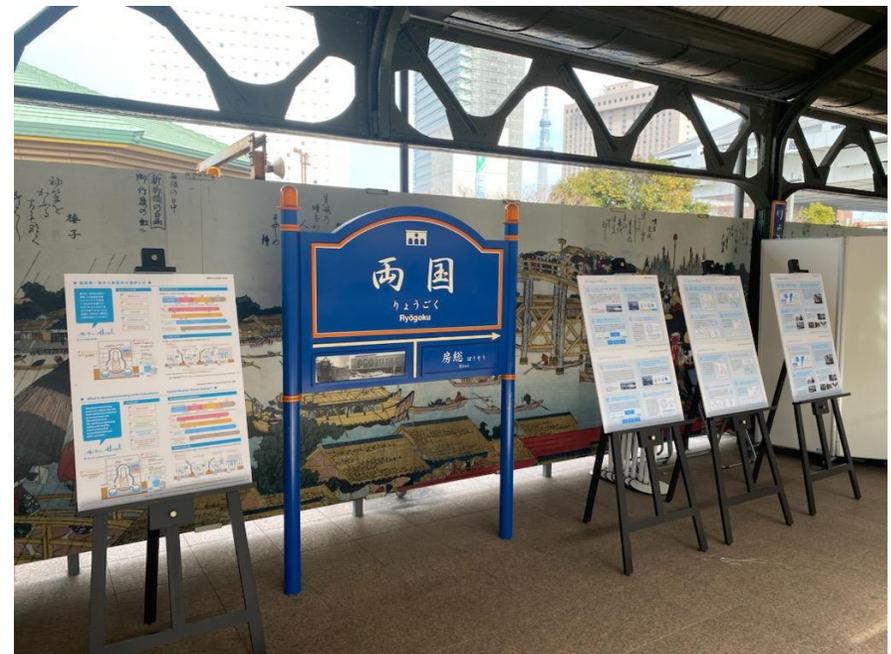
TREATED WATER PORTAL SITE

Portal Site for Treated Water
(Tokyo Electric Power Company)

こちらからご覧いただけます：https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/english/shirou_alps.html

- 消費者庁をはじめとする関係省庁とともに、**らぽーと横浜**（1月15日）、**両国駅**（1月22日）にて、「被災地の食品の安全性お呼び魅力等に係る情報提供イベント Learn Marche ～太平洋（岩手・宮城・福島・茨城）のいまを知って、おいしさ実感！～」を実施。
- 福島第一原発の廃炉やALPS処理水に係るパネルを設置し、来場者に対して説明等を行ったほか、「1F FACT」を放映、専門家によるトークショーなどを実施した。
- また、マルシェにおいては、**各県産品を販売するなど、魅力発信もあわせて実施した。**

イベントの様子



- 双葉町の伝統的な祭り「双葉だるま市」が、1月7日～8日にかけて開催された。
- **東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に説明、質問に対してお答えし、関連するパンフレットを配布した。
- 双葉町では昨年8月に特定復興再生拠点区域が避難指示解除され、住民の帰還が始まっている。現在双葉町に居住されている住民の方々や、震災前に双葉町にいらっしゃった方々など多くの来場者で大いに賑わった。

イベントの様子



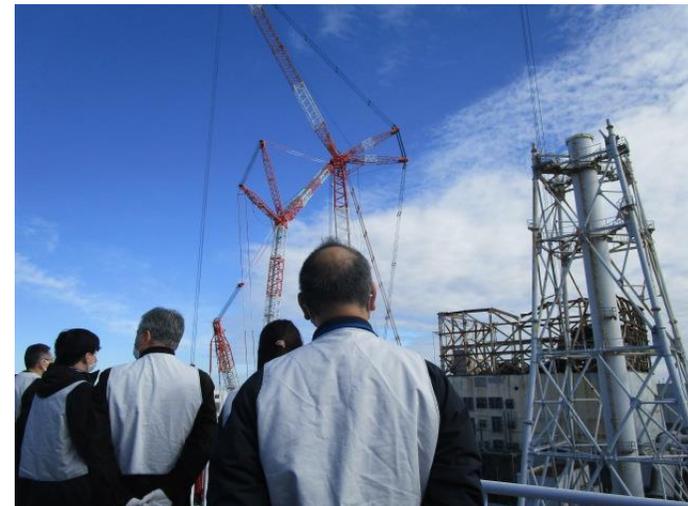
- 本年1月24日、消費者庁をはじめとする関係省庁とともに、**東日本国際大学**の学生に対して、**放射線に関するリスクコミュニケーション**の講義を実施。生産者や事業者などとのパネルディスカッションを通じて、**放射線に関する食の安全対策やALPS処理水の海洋放出に係る科学的根拠に基づいたトリチウムの性質などの説明を実施**した。
- また、講義終了後に希望する学生と**車座を実施**し、意見交換を実施した。

放射線に関するリスクコミュニケーションの様様



- 本年1月19日・20日、**日本旅行業協会**（JATA）の会員企業を対象に、**旅行商品の醸成のため、FAMツアーを実施。**
- 東日本大震災・原子力災害伝承館、福島第一原子力発電所などを視察したほか、地元事業者等による講演会を実施。

FAMツアー視察の様子



- 本年1月12日、**JENESYS（対日理解促進交流プログラム）事業の一環で、東日本大震災からの復興に関する学習を目的に来日した台湾の大学生・大学院生に対し、ALPS処理水の海洋放出に関する講演を行った。**
- 化学・農業や公共政策など幅広い分野の学生・大学院生は熱心に聴講し、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水の海洋放出に向けた取組に関して**活発な質疑応答が行われた。**



▲ALPS処理水の処分についての取組を説明



▲参加した学生からは熱心に質問があがった

- 外務省事業において**ALPS処理水に関する国際社会の理解促進のため、ユーロニュース社**（フランスに拠点を置く欧州のニュース専門放送局）との**タイアップ番組を制作し、全世界へ放送**。＜フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、トルコ語、ペルシャ語、アラビア語版でも放送＞
- 番組では、**専門家や地元の方のインタビューを交えつつ**、多核種除去設備（ALPS）を使用した処理方法に焦点を当て、本年予定しているALPS処理水の海洋放出に向けた準備状況や新たに建設を行っている関連設備を取材し、**ALPS処理水の安全性について発信**を行った。

【8分版番組】

放送期間：12月12日（月）～12月18日（日）

番組放送：15回、番組CM：25回

【4分版番組】

放送期間：12月19日（月）～1月1日（日）

番組放送：23回、番組CM：20回



YouTubeチャンネル：

https://www.youtube.com/watch?v=u29RhZjX_8M

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

安全確保

- IAEAは1月16日～20日に**第2回規制レビューを実施**。レビューの取り組みの1つとして、1月17日に東京電力福島第一原子力発電所にて行われた**原子力規制庁による使用前検査に立ち会った**。
- **IAEAカルーソ調整官は**、1月20日に行われた規制レビュー後の会見にて、「結論としては、**NRA(原子力規制庁)は使用前検査を適切に実施している**」と発言した。



使用前検査の内容

- **原子炉等規制法にもとづき、原子力規制庁が行う検査。**
- **本年1月から対象設備について順次、検査を実施。**
- **今回のレビューにおいては、測定・確認用設備の一部に関する使用前検査に立ち会い。**

(参考) 第2回規制レビュー報告書
本レビューの報告書はIAEAが数ヶ月以内に公表予定。

- 昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞（福島民報はチラシの折込））に広告を掲載。**
- 本年1月も2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：第12回、右下：第13回）

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.12

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

ALPS処理水の海洋放出にあたっての安全性確保①「設備・運用の全体像」

放出する水の安全性を確保します

当社は、政府の海本方針を踏まえて、安全確保のためのALPS処理水着釈放水設備等の設計や運用等の具体的な検討を進めてきました。

2022年7月に原子力規制委員会の実施計画承認を受け、同年8月から、安全を最優先に設備等の工事を進めています。

また、客観性、透明性の確保の観点から、国際原子力機関（IAEA）の調査員や国際専門家による安全性確認を継続して受け付けています。

放出する水の安全性確保に向けた設備・運用について、シリーズでお伝えします。

海洋放出までの流れ

【ALPS処理水になるまで浄化（①図）】
放射性物質が規制基準を満たさない「処理途上水」は、ALPS等で再浄化し、「ALPS処理水（トリチウム以外は規制基準を満たした水）」にします。

【放射性物質の測定・確認（②図）】
放出対象のALPS処理水について放射性物質の測定・確認を行います。測定は、当社に加え、当社が委託する外部機関も実施し、測定は適宜公表します。

【トリチウムも規制基準を満たす（③図）】
トリチウムは、**濃縮装置（リットルあたり8万ベクレル）の40分の1程度の濃度**に全量まで大量の海水で希釈し、放出する水の安全性を確保します。

【海洋放出（④図）】
海洋放出するトリチウムの量は、事故前（運転中）の放出管理目標値と同じ【1年あたり22万ベクレル未満】で管理します。

※ベクレルは放射性物質がどのくらい放射線を出す能力があるかを表す単位

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.13

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

ALPS処理水の海洋放出にあたっての安全性確保②「測定・確認用設備」

トリチウム以外の放射性物質の濃度が規制基準を満たしていることを確認

放出前には、東京電力と、国の第三者機関がALPS処理水に含まれる放射性物質の濃度を測定します。そのため「測定・確認用設備」をつくり、トリチウム以外の放射性物質の濃度が、環境放出する場合の国の規制基準を満たしていることを確認します。また、測定結果は、速やかに公表します。なお、国際原子力機関（IAEA）にも、適宜測定していただき、データの客観性を確保します。

ALPS処理水*

※トリチウム以外の放射性物質の濃度が国の規制基準を満たすまで、多量浄化設備等で浄化処理した水

測定・確認用設備の構成（1貯（タンク10基））概要イメージ

複数のタンク内の水を循環・かくはんさせ、放射性物質の濃度を均質化したうえで測定します。

①測定・確認用設備
放出対象のALPS処理水の放射性物質の濃度を測定します。

②測定・確認用設備
放出対象のALPS処理水の放射性物質の濃度を測定します。

③再浄化設備（二次処理設備）
放出対象の水は、希釈・放出前の段階で、トリチウム以外の放射性物質について国の規制基準を満たすまで再浄化します。

④測定・確認用設備
放出対象のALPS処理水の放射性物質の濃度を測定します。

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
[▶【処理水ポータルサイト】](https://www.tepco.co.jp/dec/commision/program/water-treatment/)
<https://www.tepco.co.jp/dec/commision/program/water-treatment/>

浄化のしくみについてはこちらをご覧ください
 ▶【Vol.04 ALPSの浄化のしくみ】
<https://www.tepco.co.jp/dec/commision/04/>

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
 ▶【皆さまのご意見をお聞かせください】
<https://www.tepco.co.jp/dec/commision/voice.html>



皆さまからの声におこたえします

Q 発電所敷地内に保管している水のうち、国の規制基準を満たしていない水は、どうするのですか？

A 環境放出する場合の国の規制基準を満たしていない「処理途上水」をそのまま海洋放出することはありません。これらの水は、海洋放出前にトリチウム以外の放射性物質を規制基準を満たすまで再浄化処理します。

発電所敷地内に保管している水

処理途上水(約7割) ALPS処理水(約3割)

再浄化処理

多量浄化設備(ALPS)等 ALPS処理水

測定・確認用設備へ

■ 昨年12月には、**日本経済新聞**に東京電力福島第一原子力発電所の**廃炉の現状と取組みに関する全面広告**を掲載。

新聞への広告掲載内容（スペースの関係で左に90°回転）

福島第一原子力発電所 廃炉の現状と取組み

「廃炉第一」原子力発電所の 現状

「昨年12月の日本経済新聞」に掲載された「福島第一原子力発電所 廃炉の現状と取組み」の全面広告。この広告は、廃炉作業の進捗状況や、今後の取組みについて詳しく説明しています。また、廃炉作業の重要性や、安全確保の取り組みについても触れています。

「廃炉第一」の取組み

「廃炉第一」の取組みとは、廃炉作業の優先順位を「廃炉」に設定し、他の作業を後回しにするという方針です。これは、廃炉作業の重要性を強調し、安全確保を最優先とするための取組みです。また、廃炉作業の進捗状況を定期的に報告し、透明性を確保しています。

「廃炉第一」の取組みは、廃炉作業の優先順位を「廃炉」に設定し、他の作業を後回しにするという方針です。これは、廃炉作業の重要性を強調し、安全確保を最優先とするための取組みです。また、廃炉作業の進捗状況を定期的に報告し、透明性を確保しています。

「廃炉第一」の取組み

「廃炉第一」の取組みとは、廃炉作業の優先順位を「廃炉」に設定し、他の作業を後回しにするという方針です。これは、廃炉作業の重要性を強調し、安全確保を最優先とするための取組みです。また、廃炉作業の進捗状況を定期的に報告し、透明性を確保しています。

「廃炉第一」の取組みは、廃炉作業の優先順位を「廃炉」に設定し、他の作業を後回しにするという方針です。これは、廃炉作業の重要性を強調し、安全確保を最優先とするための取組みです。また、廃炉作業の進捗状況を定期的に報告し、透明性を確保しています。

「廃炉第一」の取組み

「廃炉第一」の取組みとは、廃炉作業の優先順位を「廃炉」に設定し、他の作業を後回しにするという方針です。これは、廃炉作業の重要性を強調し、安全確保を最優先とするための取組みです。また、廃炉作業の進捗状況を定期的に報告し、透明性を確保しています。



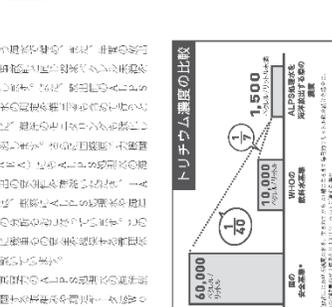
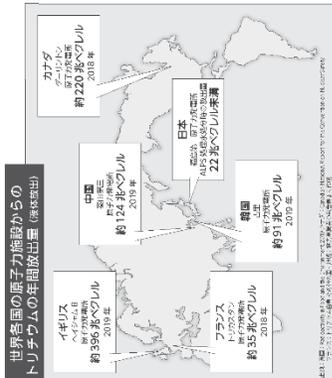
現在、福島第一原子力発電所の廃炉作業は、安全確保を最優先とし、廃炉作業の進捗状況を定期的に報告し、透明性を確保しています。また、廃炉作業の重要性を強調し、安全確保を最優先とするための取組みです。

「廃炉第一」の取組み

「廃炉第一」の取組みとは、廃炉作業の優先順位を「廃炉」に設定し、他の作業を後回しにするという方針です。これは、廃炉作業の重要性を強調し、安全確保を最優先とするための取組みです。また、廃炉作業の進捗状況を定期的に報告し、透明性を確保しています。

「廃炉第一」の取組み

「廃炉第一」の取組みとは、廃炉作業の優先順位を「廃炉」に設定し、他の作業を後回しにするという方針です。これは、廃炉作業の重要性を強調し、安全確保を最優先とするための取組みです。また、廃炉作業の進捗状況を定期的に報告し、透明性を確保しています。



トリチウムは放射能が弱く、水で希釈し飲用のレベルとして存在しています。また、トリチウムは放射能が弱く、水で希釈し飲用のレベルとして存在しています。また、トリチウムは放射能が弱く、水で希釈し飲用のレベルとして存在しています。

広告

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所 廃炉作業部

ALSO 福島第一原子力発電所 廃炉作業部
http://www.tepco.co.jp/decemission/

ALSO 福島第一原子力発電所 廃炉作業部
http://www.tepco.co.jp/decemission/